



平成 20 年 2 月期 第 1 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 19 年 7 月 6 日

上場会社名 株式会社 C F S コーポレーション (コード番号: 8229 東証第一部)
(URL <http://www.cfs-corp.jp>)

代表者 代表者役職・氏名 代表取締役会長兼社長 石田 健二

問合せ先 責任者役職・氏名 取締役財務本部長 武市 守弘 TEL : (045) 476 - 7474

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
税金費用については、法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。
最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成 20 年 2 月期第 1 四半期財務・業績の概況（平成 19 年 2 月 21 日～平成 19 年 5 月 20 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20 年 2 月期第 1 四半期	34,749	2.2	174	-	183	-	239	-
19 年 2 月期第 1 四半期	34,005	5.7	59	-	40	-	1,286	-
(参考)平成 19 年 2 月期	142,157		10		125		3,151	

	1 株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20 年 2 月期第 1 四半期	8 02	-
19 年 2 月期第 1 四半期	43 02	-
(参考)平成 19 年 2 月期	105 40	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

ドラッグストア業界および食品スーパー業界は、新規出店の加速化や同業および他業態を巻き込んだ価格競争が更に激しさを増す等、依然として厳しい状況が続いております。このような中で、当社にあっては新経営体制・新経営方針の下すべてにおいてお客様の立場に立って、お客様の信頼と支持を得られる店舗づくりを目指し、業績の回復に向け販売政策・価格政策の強化と仕入面の整備・改善を図ってまいりました。

当第 1 四半期は、業績回復に向けたこれらの施策の効果が徐々に浸透し、その結果売上高については前年同期をわずかながらも上回ることができました。しかし、販売費及び一般管理費につきましては、お客様に直接役立たない経費の削減に努めたものの、販促費の増加や新規出店コスト負担が続い

ていること、前連結会計年度同様、仕入等に係る消費税の一部を税額控除することができず租税公課が大きく増加する結果となったこともあり、なお高水準で推移したため売上総利益額の改善でこれを吸収できず、営業利益段階では概ね計画どおりの推移とはいえ、営業損失の計上を余儀なくされました。

店舗につきましては、スクラップ&ビルドとして平成19年2月「ハックドラッグ富士宮万野原店」（静岡県富士宮市）を出店したほか、神奈川県・静岡県・東京都にドラッグストア計7店舗を期初計画通り出店いたしました。また、既存店の活性化のためにドラッグストア4店舗の改装・増床と不採算店舗1店舗の閉鎖を実施いたしました。

これらの結果、当第1四半期の業績は、売上高347億49百万円と前年同期に比べ7億43百万円（2.2%）の増加となりました。しかしながら経常利益については、1億83百万円の経常損失となり、また前年同期に比し大幅に改善したものの2億39百万円の四半期純損失となりました。

（2）財政状態（連結）の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20年2月期第1四半期	53,249	16,958	31.9	567	18
19年2月期第1四半期	52,414	19,561	37.3	654	19
(参考)平成19年2月期	51,970	17,497	33.7	585	18

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年2月期第1四半期	1,602	359	314	5,194
19年2月期第1四半期	333	558	314	4,446
(参考)平成19年2月期	781	2,713	545	4,265

【財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等】

当第1四半期末の総資産は前連結会計年度末に比べ12億79百万円増加し532億49百万円となりました。この主な要因は、新規出店等の設備投資を行ったものの現金及び預金が増加したこと等によるものであります。負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ18億18百万円増加し362億91百万円となりました。この主な要因は、買掛金およびその他流動負債が増加したこと等によるものであります。また、純資産につきましては、当第1四半期の純損益が損失になったことや配当金の支出等により前連結会計年度末に比べ5億38百万円減少し169億58百万円となり、その結果自己資本比率は1.8ポイント低下し31.9%となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、前述の「経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等」に記した理由により営業活動によるキャッシュ・フローは16億2百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローは3億59百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローは3億14百万円の支出となりました。これらの結果、当第1四半期末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ9億28百万円増加し、51億94百万円となりました。

添付資料

- （要約）四半期連結貸借対照表
- （要約）四半期連結損益計算書
- （要約）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

[参考]

平成20年2月期の連結業績予想(平成19年2月21日~平成20年2月20日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	73,300	200	10
通期	147,000	1,050	250

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 8円36銭

[連結業績予想に関する定性的情報等]

当期は業績の回復を図るため既存店舗の収益回復を最優先の課題として取組み、不採算店舗については閉鎖を含め抜本的な施策を打ってまいります。新規出店については前述のとおり順調に推移しており、通期では期初の予定通りドラッグストア15店舗、スーパーマーケット1店舗程度となる見込みであります。

中間期および通期の業績予想につきましては、平成19年4月6日付け決算短信(連結)にて発表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

〔添付資料〕

1.(要約)四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科目	当第1四半期末 (平成19年5月20日)		前第1四半期末 (平成18年5月20日)		増減 金額	(参考)前連結会計年度末 (平成19年2月20日)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
(資産の部)							
流動資産							
1 現金及び預金	5,194		4,446		748	4,265	
2 売掛金	2,289		2,133		156	2,141	
3 たな卸資産	12,012		12,802		790	12,016	
4 その他	4,281		2,975		1,305	4,052	
流動資産合計	23,777	44.7	22,357	42.7	1,420	22,475	43.2
固定資産							
1 有形固定資産	12,342		11,964		378	12,325	
2 無形固定資産	1,283		1,395		112	1,335	
3 投資その他の資産	15,846		16,697		850	15,833	
固定資産合計	29,472	55.3	30,056	57.3	584	29,494	56.8
資産合計	53,249	100.0	52,414	100.0	835	51,970	100.0

科目	当第1四半期末 (平成19年5月20日)		前第1四半期末 (平成18年5月20日)		増減 金額	(参考)前連結会計年度末 (平成19年2月20日)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
(負債の部)							
流動負債							
1 買掛金	12,886		12,722		164	12,026	
2 一年内返済予定 長期借入金	3,955		3,475		480	3,955	
3 その他	7,613		5,323		2,289	6,500	
流動負債合計	24,454	45.9	21,520	41.1	2,934	22,481	43.2
固定負債							
1 長期借入金	8,470		7,925		545	8,545	
2 預り保証金	1,753		1,782		28	1,773	
3 その他	1,612		1,624		12	1,673	
固定負債合計	11,836	22.2	11,332	21.6	504	11,991	23.1
負債合計	36,291	68.1	32,852	62.7	3,438	34,472	66.3
(純資産の部)							
株主資本							
1 資本金	5,660		5,660			5,660	
2 資本剰余金	4,945		4,945			4,945	
3 利益剰余金	6,118		8,701		2,583	6,596	
4 自己株式	8		7		1	8	
資本株主合計	16,716	31.4	19,300	36.8	2,584	17,195	33.1
評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	242		260		18	301	
評価・換算差額等 合計	242	0.5	260	0.5	18	301	0.6
純資産合計	16,958	31.9	19,561	37.3	2,602	17,497	33.7
負債純資産合計	53,249	100.0	52,414	100.0	835	51,970	100.0

2.(要約)四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科目	当第1四半期 (自平成19年2月21日 至平成19年5月20日)		前第1四半期 (自平成18年2月21日 至平成18年5月20日)		増減 金額	(参考)前連結会計年度 (自平成18年2月21日 至平成19年2月20日)	
	金額	百分比	金額	百分比		金額	百分比
売上高	34,749	100.0	34,005	100.0	743	142,157	100.0
売上原価	24,986	71.9	24,524	72.1	462	101,961	71.7
売上総利益	9,762	28.1	9,480	27.9	281	40,195	28.3
販売費及び一般管理費	9,937	28.6	9,540	28.1	396	40,205	28.3
営業利益	174	0.5	59	0.2	114	10	0.0
営業外収益	51	0.2	147	0.4	95	401	0.3
営業外費用	59	0.2	46	0.1	13	265	0.2
経常利益	183	0.5	40	0.1	223	125	0.1
特別利益						10	0.0
特別損失	3	0.0	2,116	6.2	2,112	3,884	2.7
税金等調整前四半期 (当期)純利益	186	0.5	2,075	6.1	1,888	3,748	2.6
税金費用	53	0.2	788	2.3	842	596	0.4
四半期(当期)純利益	239	0.7	1,286	3.8	1,046	3,151	2.2

3.(要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第1四半期 (自平成19年2月21日 至平成19年5月20日)	前第1四半期 (自平成18年2月21日 至平成18年5月20日)	(参考)前連結会計年度 (自平成18年2月21日 至平成19年2月20日)
区分	金額		金額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 税金等調整前四半期(当期)純損失	186	2,075	3,748
2 減価償却費	350	332	1,547
3 減損損失		2,111	3,212
4 賞与引当金の増加額	528	516	24
5 退職給付引当金の増減額(は減少)	32	153	166
6 売上債権の増加額	148	113	121
7 たな卸資産の増減額(は増加)	3	205	580
8 仕入債務の増減額(は減少)	859	160	856
9 その他	379	61	1,434
小計	1,754	619	2,240
10 法人税等の支払額	120	920	1,340
11 その他	30	32	118
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,602	333	781
投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 固定資産の取得による支出	276	610	3,043
2 差入保証金の預入による支出	52	137	552
3 差入保証金の返還による収入	157	163	1,192
4 預り保証金の受入による収入	3	70	156
5 預り保証金の返却による支出	22	42	137
6 その他	168	1	329
投資活動によるキャッシュ・フロー	359	558	2,713
財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 長期借入れによる収入			4,500
2 長期借入金の返済による支出	75	75	3,475
3 自己株式の取得による支出	0	0	1
4 配当金の支払額	239	239	478
財務活動によるキャッシュ・フロー	314	314	545
現金及び現金同等物に係る換算差額			
現金及び現金同等物の増減額	928	1,206	1,386
現金及び現金同等物の期首残高	4,265	5,652	5,652
現金及び現金同等物の期末残高	5,194	4,446	4,265